

2年〇組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 ()

第 時限

2の 教室

授業者

1 資料名 にじいろのさかな (絵本：講談社)

内容項目 B-⑨ 友情・信頼

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級の児童は、素直で優しい性格の児童が多く、元気で明るい挨拶をすることもできる。放課は運動場で仲間と一緒に楽しく遊び、喧嘩(けんか)をすることもほとんどなく仲良く学校生活を送っている。しかし、そうした集団の中にも、自己中心的な言動や悪口を言う児童もみられるようになってきた。そこで、改めて仲間とどのように関わっていくとよいかを児童に気付かせたい。

(2) 資料について

本学習は「親切・思いやり」という項目である。学校生活をより楽しく充実させるには、友達関係が大切である。互いに思いやりの気持ちをもって友情を育てていく上で重要な項目である。

本資料は、虹色のうろこをもつ魚が仲間に対して横柄な態度をとっていたが、仲間がいる幸福感や仲間の大切さに気付く話である。本資料を通して、思いやりの心に触れ、仲間を大事にして学校生活を送ろうという気持ちを育みたい。

(3) 関 連

①森のともだち

②白いくつ

3 本時について

(1) 現職教育の主題と本時のかかわり

本校では話す力・聴く力を基本として心つながる授業を目指している。本時では、お話を聞いて、仲間の意見や気持ちに耳を傾けながら、主人公の行動について自分の素直な意見を発表できるようにしていきたい。

(2) 具体的な支援の手だて

◇読み聞かせ

教室の中央に児童を集め絵本の読み聞かせをする。挿絵を見ながらお話の世界に浸り、主人公の気持ちを類推しやすい雰囲気を作る。

◇板書の工夫

場面ごとの挿絵を黒板に貼り、お話の内容が分かりやすいようにする。

4 本時の展開

(1) 目 標

大事なものをみんなにあげ、なくなっても友達が周りにいる喜びを通して、友達の大切さを理解し、友達と仲良く生活していこうとする実践意欲を高めることができる。

(2) 準 備

ア 教師 絵本(にじいろのさかな)、挿絵、手紙を書く用紙

イ 児童 筆記用具

(3) 板書計画

にじいろのさかな

めあて たからものについて話し合おう

にじいろのお挿絵

- ・いじわる。
- ・いばっている。
- ・ひとりぼっちになっちゃってかわいそう
- ・小さい魚には小さいうろこをあげたけど、けちだと思う。

ふしぎな気持ちになつたにじいろおについて話し合おう

- ・ありがとうと言われちゃうれしくなった。
- ・なかまができてたのしくなった。
- ・「まいだけだからかまわない
- ・ぼく一人ぼっちじゃないや

にじいろのお挿絵

みんなにきらきらうろこをあげたにじいろおの気持ちを話そう

友だちができたのうれしいしあわせ

(4) 過 程

主な学習活動と予想される児童の反応		指導・支援 【評価】
1 自分の宝物について発表し、資料「にじいろのさかな」の話を聞く。 ・きらきらの折り紙です。 ・ぬいぐるみです。	一斉 5分	・「宝物」を思い浮かべ、価値への方向付けと、本時の話し合いへの意欲を喚起する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「にじいろのさかな」の お話を聞いて 本当にだじなものについて 話し合おう。 </div>		
2 資料「にじいろのさかな」の話を聞いて、話し合う (1) 主人公のにじうおの性格について、初発の感想を話し合う。 ・意地悪だと思う。 ・1枚だけあげたけど、1番小さいのだからけちだと思ふ。 ・最後にはみんなにあげたので、いいと思ふ。 ・ひとりぼっちになって ちょっとかわいそうだと思ふ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">〈中心発問〉</p> <p style="text-align: center;">きらきらうろこを1枚あげたら、ふしぎな気持ちになったにじうおについて、みんなが伝えたいことを出してみよう。</p> </div> ・ありがとうと言われて、うれしくなった。 ・友達が一人できたと思ふた。 ・ぼく一人じゃないや。 ・きらきら鱗が少なくなっても惜しくない。 ・仲間ができたから楽しい。 ・きらきら鱗は減ったけど、気にならないよ。 ・1枚だけだからいいや。 ・ちょっと惜しかったかな。 ・小さい魚だから1番小さいうろこをあげたからかまわないな。	全体 12分 13分 8分	・絵本が見やすいように、子どもを教室前面に集める。 ・みんなが見やすい位置に移動して発言することを確認する。 ・率直な感想を話すよう促す。理由は話せたらでよいことを伝える。 ・子どもの言葉をそのまま受け入れるようにする。 ・座席に戻るよう指示する。 ・本当の宝が何かに気付いたにじうおの気持ちに迫るようにする。 ・価値（目に見えるきらきらうろこではなく仲間や友情という目に見えないものが大事）に近づく話し合いになるよう発問を工夫する。 ・価値から離れた発言もそのまま受け入れる。 ・友達の発言に耳を傾けて聞くよう指示する。 ・子どもの発言は、できるかぎりリボイスしてから板書するよう心掛ける。 【仲間の発言を大事にしながら、価値について話し合うことができたか。(発表・発言)】 ・きらきら鱗が1枚だけになったにじうおの挿絵から吹き出しにして気持ちが発表し易いようにする。
3 きらきらうろこをみんなに上げて、1枚だけになったにじうおの気持ちを話し合う。 ・しあわせだなあ。 ・友達ができてうれしいな。	個別 7分	・にじうおに今の自分の気持ちを伝える手紙を書くよう指示する。
4 しあわせになったにじうおに手紙を書く。		

(5) 評 価

大事なものをみんなにあげ、なくなってしまうても友達が周りにいる喜びを通して、友達の大切さを理解し、友達と仲良く生活していこうとする実践意欲を高まったか。

<授業前>

・宝物は物
 ・宝物だからあげない。



<授業後>

・宝物は友達
 ・みんなと共有する。